

進路だより

光陵中学校
第3学年
2004.11.18
第39号

最終的な話し合いの結果を！！

今日、第4回進路希望調査を配布しました。今回の希望調査をもとに、以前からお願いをしていたように、公立高校以外(高等専門・私立推薦・私立一般・専修推薦・専修一般・就職)の進路先(受験校)の決定をしていきたいと思えます。いろいろとお悩みの点もあるかと思えますが、心を一気に決めることで、目標がはっきりし、やる気・意欲が出てくると思えます。しっかりご家庭で話し合いをされた最終結論をお書きください。(公立高校については、1月に最終の進路希望調査を行い、2月の個人懇談で決定します。)

私立高校・専修学校の一般入試については、日程も考慮して記入してください。(入試日程については、配布した私立高等学校の募集要項一覧や以前配布した一般入試日程表をご覧ください。)

また、今回の希望調査をもとに第2回進路指導委員会で一人一人の進路について検討します。この会は推薦委員会も兼ねますので、私立・専修学校の推薦入試、高専などの推薦選抜を希望される方は必ず、そのことを書いて(校名の前に をつけて)ください。その後に推薦を希望されても、できない場合がありますので気をつけてください。

具体的な進路選択について (主な例)

就職をする

就職のみをする

- 自分の適性、興味、能力をよく考えて、しっかり働ける所を職場見学などをして探す。

就職をして、定時制高校を受験する

- 強い意志と努力がなければ長続きしない。職場の理解も必要である。

私立高校や専修学校を推薦入試で受験する

人物や学力について中学校長が保証し、その学校のみを受験するという条件で受けるため、一般入試より有利な条件で受験できる。

私立高校や専修学校と公立高校を併願で受験する

公立を2校、私立も複数校受験することが可能である。チャレンジする学校があってもよいが、必ず1校は合格可能性の高い私立・専修学校を受験したい。一般入試で受験するため、私立・専修の条件は推薦に比べ厳しくなる。

公立高校を推薦入試で受検する (や の一部です)

中学校での成績や、部活動などでの活躍、実績によって合否が決まる。試験は3分間スピーチを含む面接のみ。一般に、公立高校の場合は、推薦入試の方が一般入試より条件が難しい。

公立高校のみを受検する

いろいろな事情でこのような選択をする場合もあるが、私立高校などの試験はすでに終わっているので、不合格の場合は、2次選抜などのチャンスを除くと進学道がほぼ絶たれる。第2希望に合格可能性の十分高い学校を入れたい。

希望調査の結果がそのまま受験校になればよいのですが、学力・成績などを考慮すると受験校の変更をしないといけないこともあります。その場合、担任が生徒と進路面談を行いながらいろいろなアドバイスをしますので、参考にさせていただきたいと思えます。

12月の個人懇談の場で最終的な私立・専修受験校の決定・確認をします。その後に、安易に受験校を変更することのないようにご協力、よろしくお願いします。

提出期限は、11月29日(月)の朝です

私立高等学校の募集要項一覧について

「平成17年度 愛知県私立高等学校生徒募集要項」を全員に配布しました。新聞でも各私立高校の募集人員などが発表されました。一覧表には、新聞より詳しい、以下のような情報が載っています。

「進路希望調査」記載のためにご家庭で相談する際、十分に参考にさせていただきたいと思います。

1. 推薦入試について

- 実施の有無、推薦枠・・・募集人員の何%を推薦入試で合格させるか。
- 試験日・・・黄柳野高校以外はすべて1月31日。
- 試験科目・・・学校によって様々。一般入試と比べると試験内容が簡易な場合が多い。
- 検定料・・・12,000円～21,000円と学校・学科により様々。
- 入学納付金・・・20万円程度が多い。
- 入学金納付期限・・・最も早いのは2月4日。学校により様々。

2. 一般入試について

- 試験日・・・黄柳野高校以外は、2月7日～9日のいずれか。
- 試験科目・・・前回の懇談の際、配布した一覧表より詳しく書いてあります。
- 検定料・・・12,000円～21,000円と学校・学科により様々。
- 入学納付金・・・公立高校合格発表前に2万円、公立発表後に18万円程度が多い。
- 入学金納付期限・・・最も早いのは、前期分が2月14日、後期分が3月23日(公立高校合格発表の日)。学校により様々。・・・等が書いてあります。

お配りしたものはあくまで「一覧表」です。より詳しく知りたい場合は各高等学校ごとの募集要項をご覧ください。一部は、進路学習室に置いてあります。

また、専修学校の募集要項一覧は1学期から各教室に掲示してありますが、個人的に必要である場合はお申し出ください。

私立高校・専修学校の推薦入試について

1学期の進路の授業で生徒のみなさんに、進路説明会では保護者のみなさんにもお話ししましたが、私立高校・専修学校の推薦入試について確認します。

推薦入試と一般入試の違いについて (例年、光陵からの受験者が多い栄徳高校を例に)

募集人員は366名で推薦枠80%ということは

1月31日の推薦入試では、小テスト(国・数・英)1時間と面接が課され、
 366×0.8 約293名が合格を決めます。

2月7日の一般入試では、残りの73名分の定員を
国・社・数・理・英の各教科35分の試験と面接で争うことになります。

人物と学力について、中学校長が保証する私立高等学校・専修学校推薦入試の有利な面がこんな具合にあらわれます。奨学金や特待生についても、推薦入試受験の方が一般入試受験者よりも有利な条件になっている場合が多くあります。

進学したい私立高校・専修学校がある場合は、可能であれば推薦入試を受験した方が有利です。

私立高校・専修学校の推薦入試に出願できる人はその学校だけを志望し(その学校だけに出願し)、中学校長から推薦された人物です。人物や学力が中学校長に保証され、その学校のみを受験するという条件で受けるため、同じ学校を一般入試で受験するより有利な条件で合否が判断されます。

中学校での生活や学習の態度と各高等学校・専修学校などが要求する条件から推薦の可否を判断することになります。推薦される人は特別に目立った活躍をした人というわけではありません。以前から言うように「当たり前前(あたりまえ)のことが当たり前前(あたりまえ)にできる人」です。

推薦するか否かの判断は、3年生の先生だけでなく、教頭先生や1・2年生の先生方など全校の先生の意見を聞いて、校長先生が行います。

推薦入試の受験を希望する人は、進路希望調査の所定の場所に 印をつけて提出してください。